

特集

救命救急スキル 便利帖① すぐに役立つA, B, C

救急ではさまざまな検査、モニタリングや処置が行われます。救急医は第六感まで働かせて緊急度・重症度を察知し、これを裏づけるために必要最低限の検査を行い、救命のため、予後改善のために必要な処置を行います。このような処置や検査については本誌でも今まで幾度か特集されてきましたが、その後、技術は進歩して、救急初期診療における検査や処置は“ABCDEアプローチ”のなかで異常の発見、安定化の文脈で行われるようになってきました。これらを踏まえ、本特集では検査や処置を、ERや救命救急センターいずれにおいても初期診療からその後の集中治療を通じて必要な、コンテンポラリーな「救命救急スキル」として、2号連続でまとめます。

その前半となる今号では、“A（気道）、B（呼吸）、C（循環）”にかかわるものを中心に、基礎的なスキルから救命目的の高度なスキルまで、現在の救急医としておさえておきたい内容を取り上げました。写真や図を用いて実践的に、「いつでも」「どこでも」「すぐに」、何かのときに役に立つ、現場目線の特集を目指しています。検査や処置に夢中な若手から、現場に熱心な指導医まで、幅広く活用していただければ何よりです。

なお、次号の2017年8月号では“C（循環）、D（中枢神経）、E（環境・体温）”にかかわるスキルを中心に紹介しますので、あわせてご期待ください。